

- 要素があらかじめ小さい順に並んでいる配列 `data` に対して、次の手順で `key` を探索する関数を作成せよ。  
 (1) まず配列の中央の値と `key` を比較し、もし等しければ探索終了。(2) そうでなければ、`key` が配列の前半と後半のどちらに含まれるか分かるので、それを新しい探索範囲とする。(3) 新しい探索範囲の中央の値と `key` を比較する。(4) 以上の手順を繰り返し、範囲を次々に半分に絞り込んで探索していく。

```
int binary_search(int key, int data[], int n)
{
    int left, right, mid;

    left = 0;          /* 探索範囲の左端 */
    right = n - 1;    /* 探索範囲の右端 */

    while (left <= right) {

        if (key == data[mid]) {

        } else if (key < data[mid]) {

        } else {

        }

    }
    return -1;
}
```

- この2分探索の最大計算量（最悪計算量）を考えてみる。
  - 最初の探索範囲には  $n$  個の要素がある。(1)~(3)のループを1回行うごとに探索範囲（分割された広いほう）は  $\alpha$  分の1に狭まるので、 $k$  回目では  $n$  の  $\alpha^k$  分の1個になる。 $\alpha$  の値を示せ。
  - 最悪の場合のループ回数を  $k$  回とすると、 $k-1$  回目に探索範囲が最後の1個になって  $k$  回目に最後の比較をするので、およそ  $n \cdot \left(\frac{1}{\alpha}\right)^{k-1} = 1$  という式が成り立つ。この式から最大計算量  $k$  を求め、 $n$  を横軸としたグラフを描いて線形探索と比較せよ。
- この2分探索の平均計算量を考えてみる。ただし、簡単のため  $n = 2^k - 1$  とする。
  - `key` が配列の中央の値と同じなら1回目で見つかるので、1回目で見つかる値は1個である。以下、2回目で見つかる値は2個、3回目は4個と続く。最後の  $k$  回目で見つかる値は何個か示せ。

- 平均計算量が以下の式で求められる理由を考えよ。

$$C = \frac{1}{n} \{1 \cdot 1 + 2 \cdot 2 + 3 \cdot 4 + \dots + (k-1) \cdot 2^{k-2} + k \cdot 2^{k-1}\}$$

【発展】この値は、 $2C - C$  を計算することによって求めることができる。難しいので説明は省略…。

$$2C - C = \frac{1}{n} \{k \cdot 2^k - (1 + 2 + 2^2 + \dots + 2^{k-1})\} = \frac{1}{n} \left( k \cdot 2^k - \frac{1 - 2^k}{1 - 2} \right) = \dots$$

4. 【発展】下記のプログラムは、2分探索を再帰を用いて記述したものである。1の関数とは引数が異なり、配列の中の `data[first]~data[last]` の範囲から値 `key` を探索する。この関数の動作を考えてみよ。

```
int binary_search2(int key, int data[], int first, int last)
{
    int mid;

    if (first > last)
        return -1;

    mid = (first + last) / 2;
    if (key == data[mid])
        return mid;
    if (key < data[mid])
        return binary_search2(key, data, first, mid - 1);
    /* else */
    return binary_search2(key, data, mid + 1, last);
}
```

5. 【発展】下記のプログラムは、2分探索を改良した内挿探索（補間探索）と呼ばれるものである。これは、配列内で添字が `left` から `right` まで増えるにつれて、値が `data[left]` から `data[right]` までほぼ一定の増加率で増えると仮定すると、探索値 `key` は次の比例式の `mid` の位置付近にあるだろうという推測に基づく。

$$right - left : data[right] - data[left] = mid - left : key - data[left]$$

内挿探索は非常に高速だが、データによっては非常に遅くなってしまふ。どのような場合か考えてみよ。

```
int interpolation_search(int key, int data[], int n)
{
    int left, right, mid;
    int ldata, rdata;

    left = 0;          /* 探索範囲の左端 */
    right = n - 1;    /* 探索範囲の右端 */

    while (left <= right) {
        ldata = data[left];
        rdata = data[right];

        /* mid の計算式で分母が 0 にならないようにする（重複値がある場合） */
        if (ldata == rdata) {
            if (key == ldata) return left;
            /* else */ break;
        }
        mid = left + (right - left) * (key - ldata) / (rdata - ldata);

        if (key == data[mid]) {
            return mid;
        } else if (key < data[mid]) {
            right = mid - 1;
        } else {
            left = mid + 1;
        }
    }
    return -1;
}
```